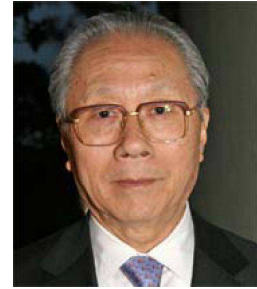


「大役を引き受けて、そしてCLPとの出会い」

国際ロータリー第2640地区IM7組

ガバナー補佐 榎本 主税 (大阪金剛ロータリークラブ)



平尾Gはじめ地区の皆様の温かいご指導と担当させて頂いた高石・高師浜・羽衣・大阪金剛RCの皆様の力強い励ましと友情に支えられて、私にとっては過大な任務を遂行しているところです。

さて、今年度最大の関心事は、早々にCLPの問題が急浮上してきたことでした。早速、昨年10月の地区大会第1日目のパネル・ディスカッションのテーマにも挙げられ地区会員の関心も一段と高まりました。前窪PGの巧みなコーディネートのもと3人のパネリストとして短期間によく勉強された岡本勝士AGと川村克人有田RC会長の両氏に私もパネラーの一角を汚すこととなり、にわか勉強することになりました。急遽ロータリー100年の歴史を返りますと、これまでに何度か崩壊の危機を迎えた時期があり、その都度先人達の知恵で乗り越え今日のロータリーの発展に至っていることが解りました。第二次世界大戦という特別な事態は別にして、数度にわたりロータリーの危機存亡を招いた主な原因は、ロータリーの目的は思いやりの心の普及運動であり、自己の職業倫理の向上を目指した所謂自己研鑽にあるという「理論派」と奉仕の実践こそがロータリーの目的であるとする「実践派」の真っ向対決でありました。この両派のバランスをとりながらロータリーはその都度変化し発展してきたと思われまます。言い換えれば天秤の両方に重りを足しながらバランスを調整している様にもみえます。しかし重りが多くなればなるほどバランスが崩れたときの反動は大きくなることは容易に予測されます。

この度のRIが提案したCLPの狙いには、とくに最近の日米におけるロータリー会員の激減により機能低下と弱体化したクラブをいかに活性化させるかという手段としては効果的かも知れませんが、いかにも実践派を重視したきらいがあり、ロータリーを一つの人生哲学と考えている理論派のロータリアンには素直に受け入れ難いものがあり紛争の火種に成りかねないと思われまます。実践派の暴走を許すまいと、取り越し苦労かもしれませんが、当日のパネル・ディスカッションではCLPの考えに反対の立場をとりまました。これが正しい判断だったかはいまだに解りません。

残りの貴重な期間は、担当クラブをもう一巡して自己研鑽に努め、与えられた任務に感謝しつつ「超我の奉仕」のテーマを振り返ってみる良い機会にしたいと思っています。